



新春特別号

平成27年1月1日（木）

河内長野市教育委員会
教育長 和田 栄

謹賀新年



教職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。
それぞれに新たな決意を胸に、良き年をお迎えになられたこと心からお喜び申し上げます。

今年の干支は甲午（きのうま）。十干十二支60年の折り返し点であり、新たな決意を胸に後半30年のスタートを切る年と言われていました。皆さん方はこの大きな節目をうまく折り返し、将来に向けた一步を踏み出すことが出来たでしょうか。今年は乙未（きのとひつじ）。「乙」は、草木の芽が曲がりくねっている様子を表した象形文字です。このことが転じて、新しい改革や創造の歩を進める際には様々な抵抗や困難に遭遇するものですが、どんな紆余曲折を経ても一意専心ことにあたらなければならないという年となります。さらに「未」は、生い茂った草木の枝葉を払い落として新しい生命を育てていくという語源から、降り注いでくる様々な抵抗や困難に負けず、末節にこだわらず、そして、時代にそぐわない慣習は改め、新しい価値観を受け入れることが大事な年回りと言われていています。私たちに投げかけられている公教育の現状を改めて見つめ直すと、こうした言葉が今後の教育のあり方を示唆してくれているように感じるのでしょうか。

さて、現在は限りなく変化の時代と言えます。しかも、グローバル化や高度情報化、超少子高齢化など、かつて誰一人として経験知を持たない時代に入り込んでいます。絶え間なく、しかも、急激に押し寄せる変化の波は、私たちの住む教育の世界にも実に多くの課題を投げ込んでいます。今、私たちを取り巻くこの大きな渦に乗り遅れることは、21世紀の時代の迷子になることを意味します。この時代の教育を託された私たちは、将来に禍根を残すことにならないように、この変化の時代からの要請をしっかりと受け止め、先人が積み上げてきた教育水準を一層向上させなければなりません。そして、その際、次の視点に立って事に当たらなければならないと思っています。

- ◎ 学校に依存しすぎた公教育を改めて全市民の責任ある営みに戻す！
- ◎ 戦後教育の負の遺産に対してバランスを重視して公教育の質を高める！
- ◎ 改正された教育基本法の理念に基づいた新たな教育の礎石を構築する！

今、私たちは、戦後教育とは質的に相違の大きい21世紀型教育に必要となるこうした価値観を変革させなければならない使命を負っています。そのことから、制度・システム等をも含め公教育の質を高めるために起爆剤としたのが、平成22年3月議会で議決した『河内長野市教育立

市宣言』です。そして、当宣言によって、これらの問題意識を浮上させ、将来の不透明な時代を生き抜くための教育像として掲げたものが、“おらが学校”を拠点にした“ふるさとのつながりによる学びの実現”です。

子どもたちだけでなく大人も含め、市民全員が、優しいふるさとのつながりに支えられながら豊かな学びが保障される学びの里、より良い生き方を求めていく生涯学習社会を、地域総ぐるみで構築し続けなければなりません。そして、その中で、美しい日本の感性の重要性に軸足を置き、ふるさとをこよなく愛する心を持ちながらグローバル社会で活躍することが出来るレジリエンスを備えた人材を育てていかなければなりません。

こうした教育理念のもとスタートを切った本市の教育改革は、今、皆さん方の熱い思いによって、小中一貫教育やコミュニティスクール制度の導入、ふるさと学の実施、古典や伝統・文化体験学習、ICTを活用した教育等々、他市に誇れる多彩な取り組みが着実に形となり、その成果は、学校だけでなく家庭や地域へと浸透していることを実感しているところです。

将来に向けての教育文化の土俵の整備に重点を傾けたこの5年間の取り組みは、予想以上に大きな成果を生んでいます。この実績の大きな要因は、子ども達を中心に教育関係者それぞれが、その立場を自覚し、ベクトルを一つにして責任機能を発揮したことによると言えます。中でも、急激な時代の流れの中で、様々な苦悩を背負いながらも組織一体となって専門性を発動いただいている本市教職員の皆様の姿は、他に誇れる大きな財産とっております。心からお礼申し上げます。

60年の折り返し点を過ぎ、さらなる教育文化の向上を目指す第2フェーズが始まっている乙未の年、子ども達の育ちに関わる関係者全員が、それぞれの強みを発揮し、そして、そのベクトルを一つにして与えられた責任を果たしていただくことを心から願っています。



くろまろくん

©河内長野市 2011